

## 3. 診 療 部

---

### 目 次

糖尿病内科 .....	25
脳神経内科 .....	26
呼吸器内科 .....	28
消化器内科 .....	29
循環器内科 .....	31
外科 .....	32
脳神経外科 .....	34
整形外科 .....	35
眼科 .....	36
泌尿器科 .....	37
麻酔科 .....	38

# 糖 尿 病 内 科

## (1) スタッフ

医員（講師）	大西 峰樹
医員（助教）	八木 愛
医員（非常勤）	宮脇 正博、重本 翔

（令和4年3月31日現在）

## (2) 特徴

糖尿病内科は、常勤医2名および非常勤医2名による週4回の専門外来で、糖尿病を中心に、脂質異常症、高尿酸血症などの代謝性疾患の診断・治療を行っている。また常勤医による、糖尿病コントロール入院を精力的に行っている。

当科ではチーム医療を重視しており、現在、当院糖尿病専門チームには日本糖尿病療養指導士が3名在籍し、栄養指導、フットケアなど、チームとして糖尿病患者さんへのケアに取り組んでいる。

例年は月に1回、主に外来通院の患者様を対象に、糖尿病の病態、食事・運動・薬物治療その他に関する知識の教育を目的とした糖尿病教室を行っているが、昨年と同様にコロナ禍であったため、中止せざるを得なかった。状況を見つつ糖尿病教室を再開し、糖尿病に関する知識を広めることで、慢性的に続く高血糖や代謝異常による網膜症、腎症、神経障害、細小血管障害、皮膚感染などの合併症を予防し、患者様の生活の質（QOL）を保つことに貢献していきたいと考えている。

## (3) 診療実績

### <外来診療実績>

・フットケア外来受診数	50件
・インスリンポンプ使用患者数	3名
・CGM検査件数	8件

### <入院診療実績>

・糖尿病コントロール入院	24件
--------------	-----

### <外来糖尿病教室実績>

・コロナ禍により2021年度は中止	
-------------------	--

## (4) 今後の目標

前年度に引き続き、糖尿病教育入院の円滑化にむけてクリニカルパスの運用を行い、改善点が発生次第、更新を行ってきた。また、開催できなかった糖尿病教室について、来年度は治療薬の開発やワクチンの接種普及、緊急事態宣言の解除等を視野に入れ、再開できれば再開する予定である。

# 脳 神 経 内 科

## (1) スタッフ

病院長            木村 文治  
 特務講師        宇野田 喜一  
 医員（非常勤） 太田 真

（令和4年3月31日現在）

2019年4月1日 神経学会教育関連施設 取得

## (2) 特徴

2019年4月より「脳神経内科」が専門診療科の一つに加われました。高槻地域では大阪医科大学本院と高槻病院と当院のみが常勤医がいる「脳神経内科」専門施設として近畿厚生局から認可を受けています。対象疾患としては、脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）、脳髄膜炎、アルツハイマー病などの認知症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症などの神経難病、神経免疫疾患（重症筋無力症、多発性筋炎、ギラン・バレー症候群など）、片頭痛などです。当科の基本的方針や特色地としては神経難病から頭痛まで、幅広く神経内科疾患に対応しております。また、脳神経外科、整形外科およびリハビリテーション科などとも密に連携をとりながら診療を行っております。

## (3) 診療実績

ICD 病名別内訳

ICD 病名	2018年	2019年	2020年	2021年
パーキンソン病関連疾患	63件	77件	73件	51件
脳血管疾患の続発・後遺症	48件	48件	140件	68件
神経系の変性疾患, 詳細不明	17件	37件	30件	9件
脊髄性筋萎縮症および ALS	16件	30件	36件	18件
てんかん	6件	6件	6件	5件
炎症性多発（性）ニューロパチ<シ>ー	6件	6件	6件	1件
他に分類されるその他の疾患の認知症	5件	5件	5件	3件
その他のミオパチ<シ>ー	4件	2件	6件	0件
重症筋無力症	4件	4件	0件	6件
アルツハイマー病の認知症	3件	5件	2件	3件
一過性脳虚血発作および関連症候群	3件	5件	2件	2件
多系統変性（症）脊髄小脳変性症	2件	11件	7件	9件
髄膜炎	1件	1件	2件	1件

ICD 病名	2018年	2019年	2020年	2021年
多発（性）ニューロパチ＜シ＞ー CIDP	1件	1件	2件	0件
その他の脳炎，脊髄炎および脳脊髄炎	1件	1件	2件	3件
その他の舞踏病	1件	1件	0件	2件
もやもや病＜ウイリス動脈輪閉塞症＞	1件	0件	0件	0件
原発性筋障害	1件	1件	0件	0件
限局性脳萎縮（症）	1件	1件	0件	9件
高血圧性脳症	1件	1件	0件	0件
細菌性髄膜炎，他に分類されないもの	1件	1件	3件	1件
多発性硬化症	1件	1件	1件	0件
中枢神経系のその他の脱髄疾患	1件	1件	1件	0件
脳実質外動脈の閉塞および狭窄	1件	1件	1件	1件
片頭痛	1件	1件	0件	0件
脳腫瘍	0件	0件	9件	1件
総計	194件	248件	334件	193件

#### （４）今後の目標

「新しい時代へ 共に育み チームワークで取り組む 地域医療」をスローガンに、脳神経内科領域における急性期から回復期・慢性期まで、難病医療に特徴を有する施設として輪・話・和を持って安心して安全な医療を幅広く提供したいと考えています。

# 呼 吸 器 内 科

## (1) スタッフ

医員 村尾 仁

(令和4年3月31日現在)

## (2) 特徴

呼吸器の病気は、上気道（咽頭～喉頭）、下気道（気管～気管支）、肺まで広範囲にまたがるが、当院の診療実績で最も多いものは気管支喘息、COPDである。

その他、CPAPを導入された睡眠時無呼吸症候群、慢性進行性の難病である間質性肺炎、肺非結核性抗酸菌症、通常の急性肺炎を含む呼吸器感染症などである。

肺がんなどの悪性腫瘍の診療については、大半は肺がん検診後の精密検査を目的とした紹介患者さんが多数となっている。

不安を早期に緩和するため可能な限り当日に胸部CTを施行し、結果を説明している。

また、必要に応じて大阪医科薬科大学病院 呼吸器腫瘍内科もしくは呼吸器外科に紹介し、遅滞ない診断と治療の流れを実現している。その後、根治や延命を目的とする積極的な治療を終了された段階になれば、再び当院でフォローしている。

## (3) 診療実績

患者の内訳

気管支喘息・COPD : 60%

肺がん : 15%

睡眠時無呼吸症候群 : 5%

間質性肺炎 : 5%

肺非結核性抗酸菌症 : 5%

急性肺炎等 : 10%

# 消 化 器 内 科

## (1) スタッフ

副院長、内科統括部長（特務教授） 瀧井 道明

消化器内科部長（臨床教育教授） 中畑 孔克

病院長補佐（非常勤）（大阪医科大学内科学Ⅱ教室教授） 樋口 和秀

医員（非常勤） 大坂 直文、箱田 明俊、清水 光、高山 和樹、山村 昌大、村田 岳洋

（令和4年3月31日現在）

## (2) 特徴

- ・ 消化器疾患は対象臓器が広く、腹部症状も多様で画像診断の占める割合が高いため、専門医による迅速な画像検査体制を整備している。平成30年度から始まった高槻市胃がん内視鏡検診の対象者を広く受け付けている。大腸がん検診（便潜血反応）で要精密検査判定の方は、紹介を頂ければ早急に大腸内視鏡検査を予約、施行している。
- ・ 通常の上部および下部消化管内視鏡検査で原因不明の消化管出血（OGIB；occult gastrointestinal bleeding）症例では、専門的なカプセル内視鏡による小腸疾患の内視鏡診断を行っている。
- ・ 当科は大阪医科薬科大学病院消化器内科との連携体制が整備されており、当院で診断・治療が困難と考えられる場合には、迅速に大阪医科薬科大学病院消化器内科に紹介し対応している。例えば、総胆管結石などによる閉塞性黄疸、急性胆管炎に対しては、早急に大阪医科薬科大学病院消化器内科に紹介して、胆汁ドレナージなどの処置を施行してもらっている。
- ・ 入院患者では、言語聴覚士（ST）による嚥下機能評価、栄養サポートチーム（NST）による栄養状態評価を積極的に行った上で、病態に応じた適切な栄養療法の導入に努めている。高度の嚥下摂食障害があり経鼻胃管栄養が長期間に及ぶ患者には、経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）を施行している。高齢者で診断困難な急性腹症の症例に対しても、当院外科に迅速に相談可能な体制を整えている。また、他科にコンサルトして、肝硬変などの難治性腹水に対しては、適応があれば腹水濾過濃縮再静注法（CART）や腹腔・静脈シャント術を施行し、高度黄疸に対してはビリルビン吸着療法も施行可能である。
- ・ 外来診療は非常勤の樋口教授の特殊外来をはじめとして、専門分野に応じて計7名の医師により行っている。薬物治療として、ヘリコバクター・ピロリ菌感染性胃炎に対する除菌療法、C型慢性肝炎に対するインターフェロンフリーの経口抗ウイルス剤治療、B型慢性肝炎に対する経口核酸アナログ製剤治療なども行っている。
- ・ 消化器疾患が疑われる高齢の患者で、外来通院での検査が困難な場合には、短期間の検査入院も行っている。

### (3) 診療実績

<主な検査・処置件数>

	2019年度	2020年度	2021年度
1) 上部消化管内視鏡検査総数	907件	815件	633件
・高槻市胃がん内視鏡検診	100件	42件	45件
・経皮内視鏡的胃瘻造設術 (PEG)	36件	28件	22件
・内視鏡的止血術	17件	9件	6件
2) 大腸内視鏡検査総数	543件	464件	288件
・ポリペクトミー	107件	218件	141件
・EMR	116件	127件	50件
・内視鏡的止血術	3件	14件	6件
3) 消化管造影検査総数	34件	35件	25件
・上部消化管造影検査	20件	13件	12件
・注腸造影検査	3件	11件	5件
・イレウス管挿入・造影	11件	11件	8件
4) 小腸カプセル内視鏡検査	0件	5件	3件
5) 腹部超音波検査	570件	446件	378件

### (4) 今後の目標

- ・火曜日午後に慢性便秘症外来が開設されており、その他各外来ともに少しでも腹部症状・不定愁訴のある患者、消化器疾患を心配されている患者を広く受け入れていく。
- ・検査・処置の件数の増加のみならず、大学付設の病院として診療の質的な向上を目標とする。当院外科や大阪医科薬科大学病院消化器内科との連携をさらに強化して、常にベストな治療方針を選択できるように努めていく。すなわち、地域医療に根ざしながらも地域医療の高質化を目標としていく。
- ・高齢の入院患者では、消化器疾患のみならず慢性疾患が複合的に併存していることが多く、長期の臥床によりADLが低下しやすい状況にある。そこで、早期にリハビリテーションを開始し、栄養療法を積極的に導入するなど、消化器疾患を中心とした全人的な総合内科診療を目標としていく。

# 循環器内科

## (1) スタッフ

医員 渡邊智彦、藤岡慎平、藤吉秀樹

(令和4年3月31日現在)

## (2) 特徴

循環器疾患全般に対応する。外来および入院診療をはじめとし、他科とも連携を図り診療に当たっている。大阪医科薬科大学循環器内科から常勤医が派遣されており、他に同非常勤医師5名が外来診療、ペースメーカー外来、心エコー検査、エルゴメーター負荷心電図、CT検査、また当直業務の一部に携わっている。

## (3) 診療実績

- ・ 外来診療では、内科外来、循環器内科紹介診、ペースメーカー外来、術前外来を行っている。
- ・ 入院診療では、心不全、不整脈、虚血性心疾患等を対象としている。
- ・ 外来検査では、心電図、ABI、心エコー、ホルター心電図、モバイル型長時間心電計、冠動脈CT、エルゴメーター負荷心電図が施行可能である。  
(心エコー：734件、ホルター心電図：93件)
- ・ 入院検査では、心臓カテーテル検査を行っている。
- ・ 治療として、一時的ペースメーカー留置術を行っている。

## (4) 今後の目標

令和4年度より人員が充足する予定である。家族性高コレステロール血症の診断としてアキレス腱エコーの導入も予定しており、さらなる実績を重ねていきたい。



# 外 科

## (1) スタッフ

部長 出原 啓介  
 医師 阿部 信貴

(令和4年3月31日現在)

## (2) 特徴

一般・消化器外科、乳腺外科を担当する常勤医師2名及び非常勤医師1名の合計3名で診療を行っている。乳腺（岩本充彦医師）外来を行っている。

外科では、一般・消化器外科（肝癌、大腸癌、胃癌、胆石、ヘルニア、痔核、虫垂炎、ポート造設など）の手術を行っている。また、化学療法、終末期医療も行い、大阪医科薬科大学形成外科医師による褥瘡回診、WOC Nrs.、当院外科医師による褥瘡予防回診にて褥瘡の新規発生予防および治療に取り組んでいる。ほか、大学本院もしくは他院にて手術を受けた患者様の術後リハビリおよび在宅復帰までの支援や療養環境の提供も行っている。

## (3) 診療実績

<手術実績>

	2019年度	2020年度	2021年度
食道手術	0件	1件	0件
胃悪性腫瘍手術	1件	10件	3件
大腸悪性腫瘍手術	16件	24件	11件
大腸良性疾患手術（捻転、人工肛門造設、閉鎖）	13件	20件	15件
肝切除術	9件	56件	7件
胆嚢炎、胆嚢内結石、総胆管結石症手術	18件	40件	30件
膵臓手術	0件	1件	0件
ヘルニア手術（鼠経・臍・腹壁）	35件	28件	23件
肛門手術	26件	12件	7件
血管手術	2件	2件	0件
中心静脈ポート手術	13件	51件	30件
腹腔・静脈シャント手術	0件	11件	2件
虫垂炎手術	2件	5件	8件
その他（体表手術など）	28件	24件	34件
計	163件	285件	170件

手術は基本的に腹腔鏡下手術にて施行している。

#### (4) 今後の目標

当院各科および大学本院との連携をより緊密に行い、良性・慢性期疾患をはじめとする安全な手術治療およびリハビリテーションの提供を行っていく予定である。

# 脳 神 経 外 科

## (1) スタッフ

部長 西原賢太郎  
医員（非常勤） 梶本 宜永

（令和4年3月31日現在）

## (2) 特徴

脳神経外科専門医1名が勤務している。急性期、療養、地域包括ケア、回復期リハビリの各病棟があり、患者さんの病態に応じた入院加療を行っている。大阪医科薬科大学病院、近隣病院、地域開業医、施設など幅広く紹介をいただいている。外来診察に於いては、緊急性が高いと考えられる場合には速やかにCT、MRIを実施している。重症脳卒中については、大阪医科薬科大学病院脳神経外科の応援体制の下、緊急開頭手術や血管内治療を実施している。

## (3) 診療実績

・手術件数

手術内容	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
経皮的椎体形成術	0	0	11	14
頭蓋内血腫除去術	0	0	6	4
穿頭術	5	8	5	11
脊椎固定術	0	0	2	3
腫瘍摘出術	0	2	1	1
クリッピング術	1	1	1	1
脳血管内手術	0	2	0	5
その他	5	5	12	8

## (4) 今後の目標

脳卒中を発症しても、早期に脳神経外科医による診察を受けることができれば、それだけ回復率は高くなる。北摂地区には脳神経外科を標榜する病院が本当に少なく、本院としても大阪医科薬科大学病院との連携を強化しながら、北摂地区の脳神経外科医療グループの一員として少しでも地域に貢献できればと考えている。本院では脳梗塞超急性期に於いての血栓溶解療法（t-PA投与）の機会が増加しており、今後も更に質の高い医療の提供を目指したい。

# 整 形 外 科

## (1) スタッフ

副院長 金 明博  
医員 中野敦之、木澤桃子、西川祥太郎  
非常勤医師 3名

(令和4年3月31日現在)

## (2) 特徴

外傷、慢性疾患に関わらず、整形外科全般に渡る診療を行っている。中でも脊椎や関節の慢性疾患、四肢の骨折、外傷を専門分野としており、脊椎固定術や人工関節置換置換術、観血的骨接合術などの手術療法を積極的に実施している。

## (3) 診療実績

手術件数 185件

主な術式	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
観血的骨接合術	53件	56件	68件	43件
脊椎手術	29件	20件	32件	77件
人工関節手術	14件	23件	26件	19件
その他	58件	57件	19件	46件

## (4) 今後の目標

整形外科疾患・外傷全般にわたり診断の精度と臨床成績の改善を図り、診療実績の一層の向上を目指します。

# 眼

# 科

## (1) スタッフ

医員	小寫 祥太
医員	吉岡 千紗
医員 (非常勤)	舟橋 順子
医員 (非常勤)	佐藤 孝樹
医員 (非常勤)	吉川 大和

(令和4年3月31日現在)

## (2) 特徴

当院眼科では、月曜日から金曜日の午前中に眼科全般の外来診療にあたっており、毎週木曜日午前には佐藤孝樹医師の網膜疾患専門外来を設け、硝子体手術適応の方は当院で手術を行っている。また毎週月曜日午前には吉川大和医師による角膜・眼表面専門外来を、午後には小寫祥太医師による緑内障専門外来を設けている。

## (3) 診療実績

水曜日と木曜日を手術日とし、2021年度は白内障手術200件、硝子体手術7件、眼形成32件を施行している。白内障手術は日帰り・1泊2日・2泊3日で対応しており、入院中及び退院後の生活まで時間をかけて丁寧に説明し、患者様また家族様の不安を少しでも軽減できるよう心がけている。

外来では網膜疾患に対して蛍光眼底造影検査・レーザー光凝固術・硝子体注射を施行している。また、逆睫毛に対して電気分解術を、涙道閉塞に対して涙道チューブ挿入を行うなど、幅広く治療を行っている。

	2020年度	2021年度
白内障手術	269件	200件
硝子体手術	17件	6件
眼形成	57件	32件

## (4) 今後の目標

白内障手術だけでなく硝子体手術を引き続き行い、さらに当院で可能な治療内容を充実させ、少しでも多くの患者様のQOV (Quality Of Vision) 向上のため努力していきたいと考えている。

# 泌 尿 器 科

## (1) スタッフ

医員 内本 泰三、矢野 裕介

(令和4年3月31日現在)

## (2) 特徴

- ・泌尿器科は、小児から成人、高齢者にいたるまでの泌尿器疾患（夜尿症、停留精巣など）、尿路、性器の各種がん（膀胱がん、前立腺がん、腎がん、精巣がんなど）、尿路結石症、前立腺肥大症、尿失禁、尿路感染症（腎盂腎炎、膀胱炎など）、性感染症（尿道炎）などの泌尿器科疾患の全般について診療・治療を行っている。過活動膀胱、神経因性膀胱、尿路結石、悪性腫瘍などの治療を行っている。
- ・PSA 検診異常（4.0ng/ml 以上）、積極的に前立腺生検、膀胱鏡検査、画像検査など行い精査加療を行っている。

## (3) 診療実績

手術名称	2019年度	2020年度	2021年度
経尿道的尿管ステント留置術	44件	32件	17件
経尿道的前立腺切除術（TUR-P）	0件	8件	1件
経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）	19件	10件	10件
内シャント設置術	6件	9件	7件
経尿道的尿管ステント抜去術	3件	1件	0件
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	2件	0件	2件
血管移植術	3件	3件	0件
腎（尿管）悪性腫瘍手術	2件	2件	0件
その他	17件	8件	1件
合計	96件	73件	38件

前立腺生検	13件	1件	6件
-------	-----	----	----

## (4) 今後の目標

- ・悪性腫瘍の早期発見や透析管理、術後のリハビリなど、多様な患者の治療を積極的に受け、地域医療に根ざした病院を目指す。

# 麻 酔 科

## (1) スタッフ

麻醉科部長（特務准教授） 辰巳 真一

（令和4年3月31日現在）

## (2) 特徴

麻醉科は、常勤医師1名、水曜日の麻醉を担当する非常勤医師1名の2名体制で、平成28年4月に診療科として設置された。

主に手術麻醉を担当し、現在のところ外来診療は行っていない。

## (3) 診療実績

	2020年度実績（件）	2021年度実績（件）	2021年度月平均（件）
全身麻醉（吸入）	370	276	23.0
全身麻醉（TIVA）	20	45	3.8
鎮静	52	35	2.9
脊髄くも膜下麻醉	10	11	0.9
合計	452	367	30.6

## (4) 今後の目標

手術件数の増加、および大侵襲手術の増加に対応して、安全な周術期管理、患者満足度の高い麻醉のための環境を整えていく。

## 4. 看護部

---

### 目次

看護部 .....	39
南2階病棟（一般急性期外科病棟） .....	46
北2階病棟（一般急性期内科病棟） .....	48
南3階西病棟（地域包括ケア病棟） .....	50
南3階東病棟（医療療養病棟） .....	52
北3階病棟（回復期リハビリテーション病棟） .....	54
外来 .....	56
手術室・中央材料室 .....	57
血液浄化センター .....	58



# 看 護 部

## (1) スタッフ

- ・看護部長           松本 加奈
- ・看護副部長       福富 美樹
- ・看護副部長       愛場 佐緒理
- ・看護監            東 典子

(令和4年3月31日現在)

## (2) 特徴

### [看護部基本方針]

私たちは、一人ひとりの患者さんの権利を尊重し、専門知識と技術・おもいやりのある看護を提供します

### [看護部重点目標]

1. 安全・安心なエビデンスに基づく質の高い医療・看護の提供
2. 一人ひとりを尊重した働き続けられる職場環境づくり
3. 堅実な経営への積極的参加

### [看護部重点目標 項目詳細]

1. 安全・安心なエビデンスに基づく質の高い医療・看護の提供
  - 1) 感染対策の強化によるクラスターの防止 (COVID-19、疥癬)
  - 2) リスク感性を高め、転倒・転落、患者誤認、薬剤関連インシデント・アクシデント件数の減少
  - 3) 看護師・准看護師・看護補助者協働のための体制整備
  - 4) チーム医療、タスクシフト・シェアの実践 入退院支援加算1算定
  - 5) 皮膚・排泄ケア認定看護師によるストーマ外来の開設
2. 一人ひとりを尊重した働き続けられる職場環境づくり
  - 1) 大阪医科薬科大学病院・訪問看護ステーションとの連携を強化し、人材育成の充実を図る
    - ・キャリアラダーシステムと新人事制度の確立
  - 2) 一人ひとりの力が発揮できる目標管理とSSDの実践
    - ・専門職としてのやりがい支援と帰属意識の向上
    - ・倫理的感受性を高め、ハラスメントを防止する
    - ・研修への主体的参加
    - ・新採用者離職ゼロ、中途退職者の減少

### 3) 労働環境の改善

- ・可視化されていない時間外労働の把握
- ・業務の標準化・業務改善による前残業含む時間外労働の減少

### 3. 堅実な経営への積極的参加

#### 1) ケアミックス型病院として効果的・効率的な病床管理

- ・病床稼働率94%・病床回転率 平均2.0回転・平均在院日数15.4日（急性期）
- ・入院述べ患者数6,000人 / 月・外来述べ患者数5,300人 / 月
- ・手術件数900件 / 月（全麻480件 / 局麻420件）
- ・救急受け入れ拒否の改善 5%以下
- ・各病棟施設基準算定要件を満たす在宅復帰率

#### 2) 施設基準算定要件の堅持・新たな算定要件の検討

- ・看護配置・看護補助配置加算
- ・急性期看護補助体制加算
- ・夜間50対1急性期看護補助体制加算

#### 3) 支出抑制への貢献

- ・破損薬剤の減少

## (3) 活動内容と評価

[職員構成]

### 1. 看護職員

	総数	常勤	非常勤
看護師	129名	116名	13名
准看護師	12名	11名	1名
看護補助者	40名	15名	25名
看護事務（看護補助者）	7名	5名	2名
計	188名	147名	31名

### 2. 採用者

看護師（新人）	9名
看護師（中途）	10名
大学病院からの異動者	2名
看護補助者	14名

### 3. 離職率

看護師（新人）	0%
看護師（准看護師を含む）	4.4%
看護補助員（助手、看護事務含む）	19.0%

[資格取得]

認定看護管理者

認定看護管理者研修ファーストレベル	2名
認定看護管理者研修セカンドレベル	0名

[教育内容]

2021年度看護部教育実績

1) 院外研修

大阪府看護協会短期研修

月	研修内容	参加人数
6月	ACP 支援専門人材育成に係る看護管理者研修	1名
7月	看護補助者のための医療安全①	1名
	管理者に求められる労務管理	1名
	ストレスマネジメント	4名
9月	認知症高齢者の看護実践に必要な知識②	2名
	チームで取り組む医療安全「やってみよう Team s tepps」	3名
	みんなで取り組む業務カイゼン	1名
	災害看護における初期医療支援活動②	1名
	みんなで考える看護倫理：基礎編	1名
	看護職のための教育学 リフレクション	1名
	がん患者の症状緩和を図る看護	1名
	実践に活かす静脈注射輸液管理の基本知識デバイスの特徴と使用頻度が高い薬剤	2名
	みんなで考える看護倫理：基礎編	1名
	医療安全管理者養成研修	2名
10月	医療現場の行動経済学「ナッジ」って何？意思決定を支援する行動経済学	3名
	看護チームにおけるリーダーシップ①	2名
	頑張る主任、副師長のストレス対処法	1名
	危険予知トレーニング②	1名
	地域包括ケア時代の主任・副看護師長の役割	1名
	今すぐ使えるフレイル予防①	1名
	みんなで考える看護倫理：アドバンス	1名
	高齢者の「食」を考える	1名
	新人教育責任者	1名
	ファーストレベル研修 経済資源と管理の基礎	2名
	サードレベル公開講座 経営と質管理	2名

月	研修内容	参加人数
11月	精神疾患の既往を持つ患者への対応	1名
	感染管理の基礎知識	1名
	看護チームにおける看護師・准看護師・看護補助者ガイドラインと実践のためのワークショップ	2名
12月	人工呼吸装着患者の看護①	1名
	組織で取り組む感染管理①	2名
	慢性心不全患者の療養支援	1名
1月	看護記録のあり方を学ぶ①	2名
	外来看護と訪問看護でつなぐ在宅療養者への継続看護	1名
	組織の現状分析から変革につなげる看護管理	1名
3月	リスクマネジメント 医療事故への対応と看護記録	1名
	特定行為研修フォローアップ研修～特定行為を実践することによる対象者への効果と意義～	1名

## 2) 院内研修

### 【ラダー I】 新人看護師研修

月	研修テーマ	
4月	医療安全のための基礎知識 I	
	感染対策についての基礎知識	
	感染対策についての基礎知識	
	職業人としての日常生活上の注意点	
	社会人基礎力について	
	電子カルテと看護記録 I 「看護記録の基本」	
	看護技術研修 I 「基本的な看護技術を学ぶ」	
	看護技術研修 II 「基本的な看護技術を学ぶ」	
5月	感染対策 II 「COVID-19ワクチン接種の実際」	
	「夜勤を乗り切ろう」夜勤についてのガイダンス ピア・サポート I 「目標の看護師像を語り合う」	大学病院合同研修
6月	「ストレスと上手に、つき合おう！」	大学病院合同研修
	「倫理的感受性を高めよう！」～事例を通して学ぶ～	
7月	医療安全のための基礎知識 (安全な輸血療法)	大学病院合同研修
9月	入退院支援～住み慣れた地域へつなぐ入退院支援～	
	看護技術研修 III 「BLS の基本」	大学病院合同研修
10月	休息・良肢位の保持	
	医療安全のための基礎知識 IV 「KYT」	
11月	ピア・サポート II ～半年の振り返り～	大学病院合同研修

月	研修テーマ	
12月	電子カルテと看護記録② クリニカルパスの理解、看護サマリー	
1月	看護技術研修VI「活動・休息援助」「良肢位の保持」	
2月	褥瘡対策「スキンケア・褥瘡のアセスメント」	中止
3月	年間評価「看護を語ろう！」～自己評価と今後の課題～	

#### 【ラダーⅡ】 2年目看護師研修

月	研修テーマ	
10月	ケアの中の倫理的問題に気づく	大学病院合同研修
11月	ステップアップ！救急看護	大学病院合同研修
12月	訪問看護ステーション研修（1日体験研修）	

#### [実習受け入れ]

学校名	学生数
大阪医科薬科大学看護学部 広域統合看護学実習（慢性看護学領域）	2名
大阪医科薬科大学看護学部 広域統合看護学実習（老年看護学領域）	7名
大阪医科薬科大学看護学部 領域別看護学実習（老年看護学Ⅱ）	14名
藍野大学医療保健学部看護学科（老年看護学）	10名
藍野大学短期大学部（統合実習）	5名
淀川区医師会看護専門学校（老年看護学）	18名
合 計	56名

#### （4）今年度の重点目標 評価及び課題

##### 1. 安全・安心なエビデンスに基づく質の高い医療・看護の提供

###### 1) 感染対策の強化によるクラスターの防止（COVID-19、疥癬）

コロナ第5波までは近隣施設のなかでもクラスターを起こすことなく経過していたが、2022年1月にクラスターが発生した。感染対策の徹底ができていなかったことも一因であり、標準予防策に関する知識・技術の周知、ハード面の整備など今回学んだことが継続できるように次年度コロナ対応に活かすことが重要となる。

###### 2) リスク完成を高め、転倒・転落、患者誤認、薬剤関連インシデント・アクシデント件数の減少

転倒転落・薬剤関連インシデントは減少傾向。誤認事例は昨年度より9件増加した。ヒヤリハット件数は89件増加したことから、安全意識は向上したと考える。組織的取組みとしては、安全対策室と連携し救急蘇生委員会を設置し、アセスメント不足・実践能力不足による患者影響レベルの高いアクシデントを引き起こさないように認定看護師協力のもと全職員に対する研修会を実施した。次年度も対策を継続する。

### 3) 看護師・准看護師・看護補助者協働のための体制整備

主任会、業務委員会、助手会など委員会にてマニュアルの見直しを検討した。

### 4) チーム医療、タスクシフト・シェアの実践 入院支援加算1算定

多職種によるプロジェクトチームを発足。チームで検討を開始。

### 5) 皮膚・排泄ケア認定看護師によるストーマ外来の開設

12月に資格取得した皮膚排泄ケア認定看護師によるストーマ外来を開設した。クラスターによる外来休止期間もありながら、25件/年実施した。また訪問看護ステーション看護師と1件同行訪問を行い専門的ケアの提供を行うことができた。

## 2. 一人ひとりを尊重した働き続けられる職場環境づくり

### 1) 大阪医科薬科大学病院・訪問看護ステーションとの連携を強化し、人材育成の充実を図る

今年度はOMPUラダーⅠ・Ⅱの導入を行うことができた。Ⅲ以上については、OMPU評価表を用いて自己評価を行い、次年度より移行期として運用を開始する予定である。今年度より大学病院・訪問看護ステーションと3施設での教育連携会議を開催し、人事評価制度と連動した教育システムについて協働して構築する計画である。

### 2) 一人ひとりの力が発揮できる目標管理とSSDの実践

中途での看護師の正職採用が4名あったが、教育計画を立案することで1年以内の離職はなかった。

管理監督職以上の看護管理者研修への参加は100%となった。認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修に主任2人が主体的に受講できた。前年度より研修会の参加率は上昇している。次年度特定行為研修は、1名受講が決定している。認定看護師分野では、認知症看護、摂食嚥下、救急看護など今後も計画的な人材育成を行い、看護の専門性を発揮することが課題である。

次年度は、認定看護師による継続支援委員会を発足し、看護部全体の看護の質向上を目的とした活動を計画的に支援する予定である。

### 3) 労働環境の改善

可視化されていない時間外労働の把握を行った。前残業が明らかとなり補助員との協働について検討し業務改善に取り組んだ。働き続けられる職場環境改善のためにも次年度も継続した取り組みが課題である。有給休暇の取得率は、計画的付与を推進し目標は達成した。しかし、部署や個人によって差があるため、管理職への指導を行い公平に計画的に付与できることが課題である。

## 3. 堅実な経営への積極的参加

### 1) ケアミックス型病院として効果的・効率的な病床管理（実績）

- ・病床稼働率82.7%・病床回転率 平均1.7回転・平均在院日数19.7日（急性期）
- ・入院述べ患者数5,259人/年・外来述べ患者数3,537人/年
- ・手術件数50件/月（599件/年）
- ・救急受け入れ拒否 12%

地域連携室に看護師長を配置し、毎朝各部署責任者と病床管理ミーティングを行い、効果的・

効率的な病床管理が行えるようにした。また、地域連携室室長医師とも連携を図り、病床管理委員会でも多職種と情報を共有し取組みを行った。結果ケアミックス病院として、急性期病棟からの退院支援を強化し平均在院日数を基準値以内にコントロールした。

1月コロナ禍で消極的受け入れが問題となり、受け入れ要件を拡大し対応し始めたがコロナクラスターが発生し、入院患者の獲得対策が中断することとなった。

## 2) 施設基準算定要件の堅持・新たな算定要件の検討

令和4年度診療報酬改定では、急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリ病棟への要件の厳格化が進んでいる。準備ができ次第次年度コロナ重点医療機関としての役割を担うことになり、急性期内科病棟をコロナ病棟へ、急性期外科病棟を内科外科混合病棟に、地域包括ケア病棟を一時休棟することとした。

## 3) 支出抑制への貢献

薬剤部と連携し薬剤破損原因を分析することで前年度より破損金額を減少することができた。

## 南 2 階病棟（一般急性期外科病棟）

### （1）看護体制・スタッフ

- 1) 看護体制 10：1（2交代勤務）
- 2) 看護師（常勤） 18名、（非常勤） 1名  
准看護師（常勤） 2名  
看護補助者（常勤） 6名、（非常勤） 1名  
看護事務者 1名  
合計 29名

（令和 4 年 3 月 31 日現在）

### （2）特徴

病床数44床の一般・急性期外科病棟で主な診療科は外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科となっている。主な手術として、消化器外科では、開腹手術・腹腔鏡下手術・ポート造設術等、整形外科は、人工関節置換術、観血的骨接合術をはじめ脊椎手術等を幅広く行っている。その他にも泌尿器科、脳神経外科と多種多様な手術が行われ、それぞれの術式に応じた周手術期看護を行っている。

病床稼働率94%を目標にケアミックス病院の特色を活かした病床管理を行い、個々の患者に合わせた術前術後のケアや支援を行うことで、患者が安心して治療を受け、早期に社会復帰できるようなケアを提供している。また、高齢で手術を受ける患者も多く、入院時から地域医療連携室と情報の共有化、多職種との連携を行い、在宅療養や社会復帰を想定した退院指導を行い早期退院に向けた取り組みを行っている。

### （3）活動内容と評価

- 1) ケアミックス病院の中の急性期病棟として、手術を受ける患者様の術前術後の看護ケア、全身管理を行う。また院内の急変患者の受け入れ、呼吸器装着患者の管理などの急性期の対応から在宅酸素を行われている呼吸器患者の呼吸ケアまで幅広く対応した。今後も他部門と連携し看護ケアの質の向上が出来るように努めていく。
- 2) 毎朝の申し送りをはじめ、月一回、病棟カンファレンスを行い業務の見直しをスタッフと共に行う。インシデントカンファレンスを実施し振り返ることにより、安全に対する意識を高め、問題の抽出と手順やルールの見直し・改善を行い、患者にとって安心・安全な医療を提供するよう計画し実施した。しかしまだ不十分な事もあり、安全な療養環境を提供する為にカンファレンスの内容を充実し、更なる業務の見直しと改善が実践できるよう取り組んで行く。
- 3) 看護事務会、安全対策委員会と協働し5S活動（整理・整頓・清潔・清掃・しつけ）を行い、より安全で働きやすい環境を整えた。
- 4) COVID-19 感染下において、個人防護具の正しい着用方法や手指消毒の徹底に努め、感染予防対策の強化を行った。毎月の手指消毒剤の使用量をグラフ表示し、各々が感染について予防できて



いるかを認識できるよう可視化している。今後もさらに意識向上と水平感染予防に努めていく。

- 5) 大阪府看護協会を中心とした外部研修への積極的参加と、ラダー研修など院内の研修を活用し、知識・技術の向上に努めた。

#### (4) 今後の目標

診療科、疾患が多岐にわたっており、高度な看護ケアを求められることも多い。

看護の質向上のため各々の倫理観や知識・技術の習得に努め、患者に安心し安全に入院生活を送って頂けるよう努めていく。また、受け持ち看護師の退院調整の役割についての意識を強化し、スムーズな退院支援ができるよう取り組んでいく。

## 北 2 階病棟（一般急性期内科病棟）

### （1）看護体制・スタッフ

- 1) 看護体制 10：1（2交代勤務）
- 2) 看護師（常勤） 22名（内夜勤専属看護師2名）、（非常勤）1名  
准看護師（常勤） 1名  
看護補助者（常勤）4名、（非常勤）3名  
看護事務 1名

（令和4年3月31日現在）

### （2）特徴

病床数47床の急性期内科病棟で、施設基準は一般病床10：1である。当病棟の内科は消化器内科・循環器内科・糖尿病内科・神経内科の患者が主である。内科ではあるが外科の入院もあり手術を受ける患者の受け入れもしている。

2021年度病床稼働率は、平均80.2、平均在院日数は16.7日で稼働率は月により90%を超えることもある。

急性期病棟では高齢の患者、施設からの入院患者が多い。患者・家族が安心して住み慣れた地域に戻るよう早期離床を促し、退院後に必要な介護保険の申請や更新、家族を含めた退院指導など地域につなぐ支援を目指して活動している。

#### <病棟目標>

- 1) 効果・効率的な病床管理
- 2) 部署内の情報共有を密に行い、伝達の周知と各スタッフが自律した看護が実践できる
- 3) 相手の話に耳を傾け、お互いを尊重し合い、人を大切にする部署の風土を醸成する

### （3）活動内容と評価

- 1) 入院が3日以内に入退院支援カンファレンスを開催し、担当ソーシャルワーカーを含む多職種と連携し、患者・家族の意向に沿った支援をしている。急性期治療後、自宅退院が困難な症例に関しては、ケアミックス型を活かし院内の適切な領域で入院継続ができるように各部署と連携を図っている。2021年度は病床稼働率80.2%、在院日数16.7日で推移しており COVID-19 蔓延が要因とする数値の落ち込みがあった。急性期の病床を効果的に回転させ、スムーズな入院の受け入れを中心に病床コントロールを強化する。
- 2) 入退院支援カンファレンスなどを通じて、情報の共有を行い患者が安心して入院生活を送ることが出来るように日々検討している。また、受け持ち看護師を中心にケアカンファレンスを行い、退院支援に必要な説明や指導など、在宅において患者・家族が困らないように地域との連携を図

りながら寄り添ったケアを提供している。日々の患者の変化を捉え確実に情報共有をして継続したケアの提供をするためにはチーム活動をさらに強化する必要がある。

- 3) 患者・家族の言葉、スタッフの意見を真摯に受け止め、カンファレンスを通じて相手を尊重する、人を大切にする思いを振り返り、看護に活かせるように改善、継続している。

#### (4) 今後の目標

患者・家族が安心して入院生活が送れる環境と「入院してよかった」と思われる、人を大切にした皆様に愛される病棟づくりを目指す。

## 南 3 階西病棟 (地域包括ケア病棟)

### (1) 看護体制・スタッフ

1) 看護体制	13 : 1 (2 交代勤務)
2) 看護師	21名
看護助手	6名
看護事務	1名
合計	28名

(令和 4 年 3 月 31 日現在)

### (2) 特徴

地域包括ケア病棟は平成28年10月に開設され、急性期治療を終えた後、在宅への退院を目指す患者さんにご利用いただく病棟である。また、在宅介護中のご家族の休息や旅行などの目的でのレスパイト入院は定期的な利用者も増えており大変喜ばれている。

患者さん、ご家族の意向を尊重し、安心して療養生活を送っていただけるように他職種と協働して入院前の日常生活に近づけるように支援している。

### (3) 活動内容と評価

#### 【令和 3 年度病棟目標】

1. 受け持ち看護師を中心にチームで退院支援をする
2. 患者個々に応じた転倒転落防止対策を入院・転入時から実施する
3. 患者のニーズが何かを捉えた看護計画立案・実施ができ、定期的に評価・修正ができる
4. 常に誠意を持ち温かい看護を提供する
5. 適切な感染管理ができる

#### 【活動内容】

1. 他職種と共に退院後の生活を考えたケアカンファレンスを実施する。
2. 受け持ち看護師は自分がない時でもその看護（支援）が継続できるようにチームメンバーと情報の共有をする。
3. 地域包括ケア病棟の基準を維持する。経営の視点を持って病床管理をする。※在宅復帰率70%以上、病床稼働率85%、看護必要度14%以上
4. 患者に変化が生じた時に即カンファレンスを開催し対応する。転倒転落アセスメントシートの活用をする。抑制が必要な患者には倫理的配慮をし、抑制時間の短縮、抑制をしない時間帯を作る
5. チームごとに看護計画の評価日を設定し、13時30分からケアカンファレンスを実施する。
6. 患者のニーズは何かを捉えてケアができるようにまずは訴えに耳を傾ける。モニターアラーム、ナースコールには迅速に対応する。

7. 手指消毒回数は毎月15回以上を維持。感染経路別、病原体別感染予防策に基づいて行動する。

#### 【評価】

地域包括ケア病棟の施設基準を満たすことを優先して退院支援に関わっており、毎日の稼働率、在宅復帰率をエクセルで管理しスタッフで共通理解できるようにした。病床稼働率：78%、在宅復帰率：83%でBSC目標値を達成することができた。毎日の退院支援カンファレンスは1週間以内の開催は100%で達成できた。患者の到達目標（ゴール）を多職種と設定して、必要な支援が何かを明確にすることで受け持ち看護師を中心に退院指導に取り組んでいる。昨年度は転倒転落件数が56件であり、離床センサーの整備、必要時精神科の受診で適切な薬剤の使用、患者の変化に伴うカンファレンスの開催など事故防止に努め35件に減少したが今後も引き続き強化が必要である。接遇面では看護助手を含め礼節を重んじた温かい対応ができるように職場風土からの改善を図っている。患者の訴えに耳を傾け、迅速に対応することが患者の安心感につながることを認識して行動している。

1月からコロナクラスターとなり防護服着用の訓練をはじめとする感染対策が急務となった。患者のコロナ関連症状に対して迅速に対応することも身についたが、一人のコロナ感染患者から同室者への感染拡大があり防ぐことができなかった。感染対策室と連携し、素早くゾーニング、マニュアルに沿ったケアで他の病室への伝播は防ぐことができた。クラスターにより入院制限が余儀なくされたことで収益にも大きく影響することを理解して今後も適切な感染対策を習得・講じる必要がある。

#### （4）今後の目標

受け持ち看護師を中心に退院支援に取り組むことが徐々にできてきている。次の目標はチーム活動が円滑に行えるようリーダークラスが固定チームナーシングの機能を理解して、患者の支援ができることである。また、地域包括ケア病棟における施設基準の特徴を再度共通認識すること、自分たちの看護の質を上げることが顧客獲得となることを理解しスタッフ全員が経営に参画しているという自覚をもって行動することが望まれる。これからの超高齢化社会、with コロナの時代、社会情勢の変化を適切に捉え柔軟に対応できる力が必要である。

## 南 3 階東病棟 (医療療養病棟)

### (1) 看護体制・スタッフ

1) 看護体制	20 : 1 (2 交代勤務)
2) 看護師 (常勤)	15名 (内 夜勤専従者 1名)、(非常勤) 1名
准看護師 (常勤)	4名 (内 夜勤専従者 1名)
看護補助者 (常勤)	5名、(非常勤) 3名
看護事務者	1名
合計	29名

(令和 4 年 3 月 31 日現在)

### (2) 特徴

平成 26 年 4 月より、医療療養病棟 (療養病棟加算 1) 48 床の病棟であったが、令和 2 年 1 月より療養環境改善目的で個室を 2 床増床し 50 床となった。後期高齢者が 90% 前後、脳外科疾患やパーキンソン病、認知症、誤嚥性肺炎などで意識障害を伴う患者や拘縮を伴い臥床で過ごす患者が大半を占めている。

経腸栄養や嚥下障害で ST 介入や食事介助を必要とする患者が 80% をしめ、90% 以上が担送患者であり個々の患者に応じたりハビリテーションの介入及び看護ケアを実施し安心して療養していただける環境を提供している。

他病院からの転院や急性期病棟からの転棟受入れをスムーズに行い、医師、リハビリ担当者、MSW、近隣の在宅介護関連の方々とも連携を図りながら、転院及び在宅退院支援に取り組んでいる。

### (3) 活動内容と評価

- 1) 食事介助、清潔の援助など日常生活の支援を通じて患者や家族の思いや不安を傾聴し気持ちに寄り添えるよう努力している。看護ケアの充実を図るためケアカンファレンスを通して日々のケアの統一、看護の質の向上に繋げている。
- 2) 意識障害があり意思を伝えられない患者が多く、尊厳を守って関わっている。ご家族とのコミュニケーションを大切にしながら、医師、リハビリ、MSW と連携を図り、個々の患者に適した看護ケアの提供と患者の立場に立った退院支援を行うよう努めている。
- 3) 急性期病棟からの転棟受入においては、各病棟責任者に患者の情報を提供してもらい個々の患者に適した療養環境が整えられるよう工夫している。また、転棟後は家族と面談し、家族の心情や今後の方向性を確認して看護に生かしている。
- 4) 終末期の患者も多く患者本人や家族の意志に寄り添い、その人らしいエンドオブライフを過していただけるよう情報共有を充分に行いケアに取り組んでいる。
- 5) 病棟内に特浴室が造設されたことで入浴介助が 2 日に分けて実施でき、一人の患者の入浴時間が以前より確保できるようになり、より安全・安楽に入浴でき患者満足度の向上に繋がっている。

6) 平成30年より大阪医科大学本院より口腔外科医師による口腔内診察、ケアを実施し、スタッフと方法を共有することで日々の口腔ケアの強化を図り、誤嚥性肺炎予防の強化に取り組んでいる。

#### (4) 今後の目標

個々の職員が目標管理に基づいて自己研鑽し、ケアカンファレンスを充実させ、看護の質の向上を目指すことで、患者に安心安全で快適な療養環境の提供ができるよう努力する。個室を増床した事で終末期患者のケア環境改善を行うとともに ACP について学び、看護ケアに活かす。

他部門、他部署と連携し、スムーズな入退院調整を図り、稼働率100%、医療区分（Ⅱ・Ⅲ）80%以上維持を目標とし安定した病棟運営を行い病院運営に参画する。

## 北 3 階病棟（回復期リハビリテーション病棟）

### （1）看護体制・スタッフ

- 1) 看護体制 15：1（2交代勤務）
- 2) 看護師（常勤） 13名（内夜勤専属看護師 2名を含む）  
准看護師（常勤） 1名  
看護補助者（常勤） 3名、（非常勤） 4名

（令和 4 年 3 月 31 日現在）

### （2）特徴

病床数32床の回復期リハビリテーション病棟で、施設基準は一般病床15：1です。

整形外科と脳外科を中心に内科、外科など急性期治療が終了した後のリハビリテーションを集中的に行う病棟です。当病棟は、整形外科では骨折や関節障害、脳外科では脳梗塞や高次脳障害、認知症、その他内科では肺炎後の廃用症候群や外科の手術後のリハビリテーションを目的に急性期病棟から転入されます。2021年の病床稼働率は、平均75.75%、平均在院日数は37日、在宅復帰率は87.8%です。当病棟は急性期病棟と連携をとり、リハビリテーション科及び医療ソーシャルワーカーなど多職種が連携し、患者が住み慣れた地域に帰れるように、また早期に社会復帰できるように働きかけています。高齢者が多いため地域連携室と連携し、介護申請など退院に向け早期の取り組みも行っています。

#### <病棟目標>

- 1) 堅実な経営への積極的な参加
- 2) 多職種連携、協働による積極的・計画的な退院支援
- 3) 業務改善及び人材育成による安全安心なエビデンスに基づく看護ケアの充実

### （3）活動内容と評価

- 1) 急性期治療が終了した患者様がスムーズに集中した効果的な機能訓練ができるように転入受け入れを行っています。
- 2) リハビリテーション科との情報交換を行い、排泄行動訓練や病棟での自主訓練の内容などを検討し、ADLの向上に努めています。高齢者が多くADLの向上に伴い、転倒など事故発生の危険性も高まるため患者指導の充実と環境整備に努めています。
- 3) 患者家族の意向に寄り添い、多職種で目標を共有し、統一したケアをすることで早期退院に繋がっています。また、回復期リハビリテーション病棟の機能が十分に果たせるように、回復期対象患者カンファレンスを週1回実施、関連部署で情報共有を行うことで効率的なベッドコントロールに繋がっています。



#### (4) 今後の目標

多職種との連携をより深め、統一したケアを実施し計画的な退院調整を行います。また、患者様が安心してリハビリテーションに打ち込み、スムーズに社会復帰が出来るように、スタッフと共に協力し、より良い病棟づくりに努めます。

# 外 来

## (1) 看護体制・スタッフ

- 1) 看護体制          2 交代勤務
- 2) 看護師（常勤）    11名、（非常勤）    4 名  
    クラーク          2 名  
    合計    17名

（令和 4 年 3 月31日現在）

## (2) 特徴

外来では一般診療、専門診療、救急診療の 3 本柱での診療に加え、特殊検査や処置、看護外来と多様な内容に対応している。また地域のニーズに応えるべく「断らない救急」を目指し、救急車受け入れ件数は年間1017件と前年の853件を大きく上回っている。救急搬送の増加と比例して、緊急入院や緊急検査も増加しており、昼夜いかなる状況にも対応できる体制作りを強化している。

### 【診療科目】

- ・内科（呼吸器・循環器・消化器・膠原病・神経・糖尿病・ペースメーカー）
- ・外科（一般消化器・乳腺・血管）・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・皮膚科・眼科・放射線科
- ・リハビリテーション科

### 【看護活動】

「目配り・気配り・心配り」を合い言葉に患者さんの苦痛や不安に寄り添い、急性期では苦痛の緩和、慢性期では疾患を抱えながら在宅で生活する上でのサポートができるよう心がけています。

## (3) 活動内容と評価

- 1) 専門性・特殊性の向上を目指し患者さんの個別性に応じた安全で安楽な看護を提供することを目標に、情報共有の徹底をはかるとともに、看護手順の見直しを行った。  
また、業務改善として、予約専用ダイヤルを設置し予約管理システムを見直すことで、お待たせしない外来診療を心がけた。
- 2) 部署間の応援態勢、連携を強化するため病棟や検査部門との風通しをよくすることで、シームレスなサービスが提供できるよう努めた。

## (4) 今後の目標

- 1、安全で確実に診療、検査が実施できるような人員配置、業務整備を行う
- 2、患者さんのニーズを把握し、それに対応できる知識・技術の向上、人材育成に努める

## 手術室・中央材料室

### (1) スタッフ

看護師	5名
准看護師	1名
中材スタッフ	1名
合計	7名

(令和4年3月31日現在)

### (2) 特徴

手術室は整形外科、外科、脳外科、泌尿器科、眼科が共同にて3室を使用しており、令和2年度の手術件数は857件である。また内視鏡を使用した低侵襲手術や、日帰り手術、各臓器の温存手術など多様化するニーズに対応した手術を実施している。中材は手術室看護師と専任スタッフとで運営しており、院内で使用する診療や看護に必要な器具、医療材料を一元管理し、適切な洗浄、滅菌を実施し院内の医療、看護を円滑かつ安全に実施できるように支援している。

### (3) 活動内容と評価

- ・「患者様に安全で安心な手術室看護を提供する」を目標として、日々進化する手術に対応するだけでは無く安全や、感染対策について情報共有を行い、問題の対策、評価を実施し日々の業務に反映している。
- ・手術室看護師としての役割・責任を自覚できるように、業務分担を通じて各自の役割を明確にしている。看護の分野だけではなく、経営参画としてコスト意識が持てるように医療材料、薬剤の管理業務を担うことで、スタッフ主体による物品管理の適正化を実現している。
- ・洗浄・滅菌業務については、大学と連携し、リリース体制の構築や有資格者からの指導を受けることで質の向上を図っている。

### (4) 今後の目標

手術の多様化に対応するために、手術室看護師として、迅速・的確に状況判断できる知識や技術に加え接遇などの態度面も高められる研鑽の環境を整える。

また、医師や臨床工学技士などの他職種者との連携を充実させるために意見交換ができる人間関係の構築を積極的に行っていく。

# 血液浄化センター

## (1) スタッフ

1) センター長 内本 泰三  
透析担当医師 矢野 祐介

主任看護師 高田 明美  
看護師（常勤）5名、（非常勤）2名  
看護事務者 1名

（令和4年3月31日現在）

## (2) 特徴

- ・血液浄化センターは、血液透析、血液透析濾過、持続緩徐式血液濾過療法、顆粒球吸着療法など常勤医師2名その他の医師5名で血液透析の診療を行っている。
- ・血液透析では入院や外来患者の血液透析の透析中の状態観察や血液データの管理、食事指導や患者の日常生活の自己管理の援助を行っている。また、シャントPTAなどのブラットアクセスのインターバージョン治療やバスキュラーアクセスの管理を積極的に行っている。

## (3) 診療実績

シャントPTA 134件

血液浄化センター

血液透析	6348回
------	-------

## (4) 今後の目標

- ・透析の専門職としての知識を習得し、透析患者が円滑に透析生活を送れる様、質の高い看護を提供する。
- ・透析医療が地域医療に根ざした病院となるよう地域と連携を深める努力していきたい。